

平成30年度 行政評価表

担当課	アグリ推進課
章名	第4章緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第5節地域特性を活かした都市農業の振興
施策名	1. 地産地消及び6次産業化の推進

施策の内容	目指す姿	新鮮で安心・安全な農産物が安定して町内に供給され、地産地消が推進されています。また、町民が農業とふれあえる多くの機会があります。
	現状と課題	農業者の高齢化や担い手の不足などに伴い、就農者は減少傾向にあり、耕作放棄地が増加するなど、農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。農業は新鮮で安全な食料の安定的な供給を担っているだけでなく、環境保全や景観形成、防災対策上にも寄与しています。また、農作業を行うことにより健康づくりや高齢者の生きがいつくり、余暇活動の場としても大きな役割を果たしています。こうした農業の持つ多面的な機能を有効に活用し、良好な都市環境との調和を図っていく必要があります。 また、地産地消を進めるとともに、大消費地に近い農業生産地としての立地条件を活かし、新鮮農産物の安定生産や流通体制の整備などを支援していく必要があります。 また、新規就農者等、担い手の育成や農地の集積等効率化に努めるとともに、6次産業化に取り組み、地域の農業を支えていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	農産物直売所の売上	297,707千円
	(2)	地元農産物の新たな加工品数	27種類
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	346,344千円	364,392千円	352,581千円	339,594千円	350,000千円
	(2)	28種類	28種類	30種類	30種類	30種類
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,872	1,627	0	0	0	1,627

今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		果樹生産者に対し、農薬飛散防止施設設置費用の一部及び化学農薬低減技術導入にかかる経費の一部を補助金として交付し、安心安全な地元農産物の安定供給と消費拡大が図れた。また四季彩館直売組合に対し、運営費の一部を補助した。 農業戦略マスタープランに地産地消及び6次産業化の推進の今後10年間の施策展開を示した。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	農業は経営者の高齢化後継者不足により年々衰退しているが、農産物のブランド化や6次産業を立ち上げ、収入の増加を目指す経営者が出現している。
	住民ニーズの変化について	新鮮で安心・安全な農産物に対する消費者のニーズは引き続き増加している。また、地元で収穫された農産物、新たな品種や栽培方法にこだわった農産物にも関心が高まっている。
	展開した事業は適切であったか	農薬の飛散防止対策は、周辺住民への配慮や他の農作物への影響を取り除くうえで適切であったと考えられる。また、化学農薬低減技術の導入は農作物に付加価値を与える手段として有効であると考えられる。
	施策を達成するうえでの障害について	6次産業化にあたっては、ある程度の経営戦略やノウハウが必要になる。

次年度以降における施策の具体的な方向性	6次産業化の先進事例や成功事例を研究し、町の農家規模や人材とマッチングを図っていく。地産地消の要である「四季彩館」のPR強化やイベント開催などをJAと協力しながら進めていく。新規就農者で6次産業化へ取り組んでいる法人に対する育成支援の継続。農業戦略マスタープラン(地産地消及び6次産業化)の推進。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	けんかつひる市(出張直売)を年6回、町、四季彩館(JAさいたま)、県民活動総合センターとの相互連携により実施し、地元農産物のPR強化を行っている。元気夕方市を毎週金曜夕方 to 実施し、新規就農者支援とともに地元農産物の供給を実施している。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	アグリ推進課
章名	第4章緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第5節地域特性を活かした都市農業の振興
施策名	2. 担い手の育成

施策の内容	目指す姿	新鮮で安心・安全な農産物が安定して町内に供給され、地産地消が推進されています。また、町民が農業とふれあえる多くの機会があります。
	現状と課題	農業者の高齢化や担い手の不足などに伴い、就農者は減少傾向にあり、耕作放棄地が増加するなど、農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。農業は新鮮で安全な食料の安定的な供給を担っているだけでなく、環境保全や景観形成、防災対策上にも寄与しています。また、農作業を行うことにより健康づくりや高齢者の生きがいづくり、余暇活動の場としても大きな役割を果たしています。こうした農業の持つ多面的な機能を有効に活用し、良好な都市環境との調和を図っていく必要があります。 また、地産地消を進めるとともに、大消費地に近い農業生産地としての立地条件を活かし、新鮮農産物の安定生産や流通体制の整備などを支援していく必要があります。 また、新規就農者等、担い手の育成や農地の集積等効率化に努めるとともに、6次産業化に取り組み、地域の農業を支えていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	認定農業者の人数	15(人)
	(2)	新規就農者の人数	1(人)
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	15人	12人	12人	15人	15人
	(2)	2人	2人	1人	1人	1人
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	6,427	5,468	0	0	0	5,468

今年度の 施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・新規就農希望者については、県とJA、関係機関と連携を図り、相談や支援を実施してきた。 ・各種関係農業組合への運営補助金の交付や農業担い手対策として、新規就農奨励金、農業次世代人材投資資金の交付など、生産団体や営農意欲のある農業者の育成支援が図れた。 ・多面的支払機能交付金を3団体に交付し、農地の環境保全が図れた。 ・継続できなくなったぶどう畑を町・巨峰組合・シルバー人材センターで栽培・収穫し、学校給食等へ提供することで地産地消・町特産品普及の推進ができた。 ・農業戦略マスタープランに担い手の育成の今後10年間の施策展開を示した。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	生産者の高齢化、後継者不足。
	住民ニーズの変化について	野菜などの畑の耕作意欲はあるが、田や果樹の耕作意欲が薄くなっている。
	展開した事業は適切であったか	国・県補助事業等を活用し、新規就農支援、農地の環境保全が図れ、概ね適切である。
	施策を達成するうえでの障害について	生産者の高齢化に伴い、担い手の不足による遊休農地が増加。

次年度以降における施策の具体的な方向性	引き続き、新規就農者への支援、遊休農地の解消に向けた農地中間管理機構、国や県補助事業を活用し、各種問題解決に向けて対応していきたい。 果樹園を次世代へ残すために、行財政改革推進会議での意見や答申を踏まえ、町独自の仕組みや枠組み作りを模索していく一方で、意欲的な新規就農者の発掘を図る。 町管理果樹園だけでなく、町管理農地の収穫物(里芋・のらぼう菜・キャベツ等)についても、給食センターと連携して学校給食へ提供する。 農業戦略マスタープラン(担い手の育成)の推進。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	農業次世代人材投資資金、多面的支払い交付金などの国や県の補助事業を極力活用した。 ぶどうや梨を栽培したいという若い方が出現している。
----------------------	---

平成30年度 行政評価表

担当課	アグリ推進課
章名	第4章緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第5節地域特性を活かした都市農業の振興
施策名	3. 農地の有効利用

施策の内容	目指す姿	新鮮で安心・安全な農産物が安定して町内に供給され、地産地消が推進されています。また、町民が農業とふれあえる多くの機会があります。
	現状と課題	農業者の高齢化や担い手の不足などに伴い、就農者は減少傾向にあり、耕作放棄地が増加するなど、農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。農業は新鮮で安全な食料の安定的な供給を担っているだけでなく、環境保全や景観形成、防災対策上にも寄与しています。また、農作業を行うことにより健康づくりや高齢者の生きがいづくり、余暇活動の場としても大きな役割を果たしています。こうした農業の持つ多面的な機能を有効に活用し、良好な都市環境との調和を図っていく必要があります。 また、地産地消を進めるとともに、大消費地に近い農業生産地としての立地条件を活かし、新鮮農産物の安定生産や流通体制の整備などを支援していく必要があります。 また、新規就農者等、担い手の育成や農地の集積等効率化に努めるとともに、6次産業化に取り組み、地域の農業を支えていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	認定農業者の人数	15(人)
	(2)	新規就農者の人数	1(人)
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	15人	15人	12人	15人	15人
	(2)	2人	2人	1人	1人	1人
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	59,806	53,245	22,715	17,400	0	13,130

今年度の 施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・農地中間管理事業活用に向けた地域座談会を2地区で行い、農地集積の足掛かりとなった。 ・緊急度の高い箇所の農道や用排水路の修繕を行い、農業生産環境の維持を図った。 ・池田用水伏越し工事を実施し用水の安定供給に寄与した。 ・農業戦略マスタープランに農地の有効利用の今後10年間の施策展開を示した。 ・用排水路や農道の修繕等について、若干の遅延があった。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	・高齢化、後継者不足が進み、現状維持することが困難になっている。 ・農業施設の老朽化が進んでいる。
	住民ニーズの変化について	・住民の農地に対する考えが変化してきている。(農地の維持に必要な作業に苦情がくるなど)
	展開した事業は適切であったか	・少しずつではあるが農地の集約へ話し合いが進み、農家要望の用水・農道の修繕が概ね実施でき、老朽化した池田用水伏越し工事の実施ができたことで、概ね適切である。
	施策を達成するうえでの障害について	・高齢化と後継者不足。 ・農業施設の老朽化。

次年度以降における施策の具体的な方向性	農地中間管理事業などの国・県の施策が展開されているのでこれらを活用し、農地の維持・有効利用を図りたい。 老朽化した農業施設の更新。 農業戦略マスタープラン(農地の有効利用)の推進。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	平成29年度から、国の補助を活用し、老朽化の著しい伏越しの改修に向けて、取り組んでいる。
----------------------	--

平成30年度 行政評価表

担当課	アグリ推進課
章名	第4章緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第5節地域特性を活かした都市農業の振興
施策名	4. 農業とのふれあいの推進

施策の内容	目指す姿	新鮮で安心・安全な農産物が安定して町内に供給され、地産地消が推進されています。また、町民が農業とふれあえる多くの機会があります。
	現状と課題	農業者の高齢化や担い手の不足などに伴い、就農者は減少傾向にあり、耕作放棄地が増加するなど、農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。農業は新鮮で安全な食料の安定的な供給を担っているだけでなく、環境保全や景観形成、防災対策上にも寄与しています。また、農作業を行うことにより健康づくりや高齢者の生きがいづくり、余暇活動の場としても大きな役割を果たしています。こうした農業の持つ多面的な機能を有効に活用し、良好な都市環境との調和を図っていく必要があります。 また、地産地消を進めるとともに、大消費地に近い農業生産地としての立地条件を活かし、新鮮農産物の安定生産や流通体制の整備などを支援していく必要があります。 また、新規就農者等、担い手の育成や農地の集積等効率化に努めるとともに、6次産業化に取り組み、地域の農業を支えていく必要があります。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	認定農業者の人数	15(人)
	(2)	新規就農者の人数	1(人)
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	15人	12人	12人	15人	15人
	(2)	2人	2人	1人	1人	1人
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	50	48	0	0	0	48

今年度の 施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由 （施策に対する 今年度の実績 及び効果）		・小学5年生を対象とした田植え・稲刈り体験、一般町民（ボーイスカウト・児童館等団体を含む）を対象としたさつまいも堀りを体験してもらい、農業への関心を高めることができた。 ・レクリエーション農園を推進することで、非農家の方の種まきから収穫までを体験する機会を提供できた。 ・農業戦略マスタープランに農業とのふれあいの推進の今後10年間の施策展開を示した。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	良好な農環境の保全と地域の活性化について重要性が見直されている。
	住民ニーズの変化について	健康増進、食育等を目的に農業体験講座等のニーズが増加している。
	展開した事業は適切であったか	多くの子供に農業体験をしてもらい、農業への関心が高められた。またレクリエーション農園の推進により、非農家の方へも農業の関心を高められたこともあり、概ね適切である。
	施策を達成するうえでの障害について	農家指導者の高齢化による人材不足。

次年度以降における施策の具体的な方向性	野菜栽培・ぶどう収穫など多様な農業体験の場づくりの推進。 農業戦略マスタープラン(農業とのふれあいの推進)の推進。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	子供から大人まで幅広い年齢層に農業体験の場づくりができた。
----------------------	-------------------------------